

第80回 獣医学セミナー

獣医療における経カテーテル的 動脈内治療

～肝動脈塞栓術を中心に～

谷 健二 先生

(獣医外科学)

2021年 2月17日(水) 16:00-17:00

獣医学研究科棟4階 大講義室

肝動脈塞栓療法(Transcatheter arterial embolization; TAE)とはカテーテルを用いた血管内治療のひとつであり、ヒト医学では肝細胞癌に対する標準的な治療です。これまでに正常犬におけるTAEの影響は軽微であり、超選択的に目的肝動脈に薬剤注入でき得ることを確認しました。また手術適応外ならびにTAE施術の要望があった肝細胞罹患犬に対して、TAEを実施したところ、腫瘍容積の減少が認められています。人医学では2014年から薬剤溶出性ビーズ(drug eluting bead, DEB)が利用可能になり、この薬剤溶出性ビーズを用いた肝動脈塞栓化学療法(TACE)の利用が可能になっています。これはDrug-eluting bead transarterial chemoembolization (DEB-TACE)と呼ばれ、腫瘍内の薬剤濃度を高めるとともに正常な肝実質や膵臓への影響がより軽減されると期待されています。今回、獣医療における経カテーテル的動脈内治療の可能性について、肝動脈塞栓術を中心に紹介します。

★ 教員・学生の積極的な参加をお願いします！ ★

連絡先： 島田 (5909) 、伊賀瀬 (5897)

